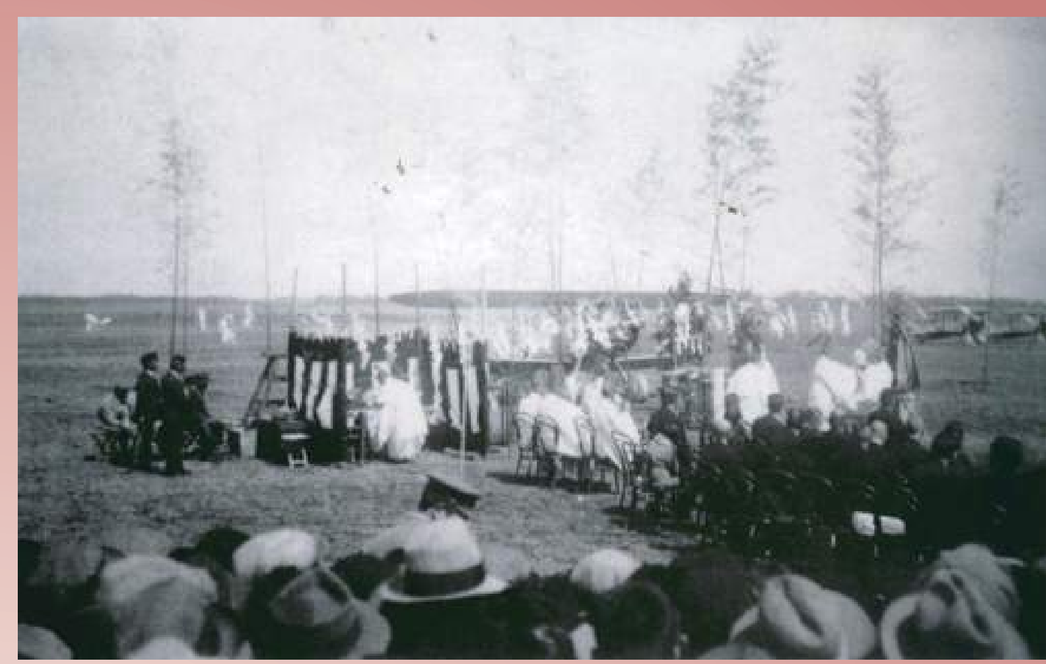
—所沢飛行場ものがたり—

戦時中の所沢と所沢飛行場

献納された愛国所沢町民号（二式単座戦闘機鍾馗）



愛国号献納式

昭和 16(1941) 年 12 月 8 日、日本は太平洋戦争を開戦し所沢飛行場からも数々の飛行機が戦場へと飛び立っていきました。飛行場周辺、上安松、山口貯水池南岸などには高射砲陣地が設置されました。

遡って昭和 8(1933) 年、飛行機献納運動が全国で展開され、埼玉でも県民の献金で二機が献納されています。所沢で行われた命名献納式には四万人の人出があり、各旅館はもちろん、飲食店まで大変な客足で、飛行学校から所沢駅までの間は身動きできないほどの混雑だったと当時の新聞は報じています。**昭和 18（1943）年には町民が 10 銭、20 銭の寄付を集めて愛国所沢町民号**という飛行機を献納し、東條英機首相も献納式に出席しました。

昭和 18 年（1943）4 月所沢町、松井村、山口村、吾妻村、小手指村、富岡村の一町五村が合併、あらたに所沢町となりました。

昭和 16(1941) 年には国策で小学校は「国民学校」となり、昭和 19 (1944) 年には所沢商業学校は所沢工業学校となり、国民学校高等科の児童まで飛行場の草刈り等の勤労奉仕にかりだされ、工業学校の生徒達は援農（出征兵士の留守家族を助けて農作業を行う）、所沢飛行場の誘導路・掩体壕（えんたいごう）（飛行機を隠す壕）造り、松根油堀、松脂採取に動員されました。戦況が激しくなると所沢の町にも幾度も米軍機が飛来しました。**豊岡飛行場（現航空自衛隊入間基地）を攻撃後、折り返して所沢飛行場を襲った**のです。昭和 18（1943）年から軍事施設を抱える所沢地域への空襲も始まり、**昭和 19（1944）年には敵機来襲による警報も 57 回発令**されています。

昭和 20（1945）年に入るとますます激しくなり、**警戒警報 335 回、空襲警報 72 回、被害回数 15 回（市街地 4 回、村落地 11 回）、宣伝ビラの配布 1 回**となっています。防空態勢として防護団が整備され、警報伝達、灯火管制、避難訓練、消火訓練などの予行練習が各町内の隣組で実施されました。

8 月 6 日、広島に原子爆弾が投下され、**状況把握のため大本営は広島原子爆弾調査団を所沢飛行場から正午に出発**させ、米子経由で夕刻広島に入っています。8 月 7 日、近衛文麿特使をモスクワに派遣して対連合国和平仲介をソ連に依頼するため、**大本営飛行班の四式重爆撃機 1 機が所沢飛行場で待機**していましたが、翌日、ソ連が参戦した為に中止されています。

立川、八王子が爆撃され、昭和 20（1945）年 8 月 14 日、熊谷が爆撃されると明日は所沢だろうという噂が流れましたが、8 月 15 日の終戦を迎え、所沢の町は爆撃を免れました。

所沢商業学校生徒による砂取り作業

供出された金属の展示